

宗務所便り

2008年12月1日発信

No. 53

愛知西教区宗務所長 武山廣道 九拝

謹啓上 師走の候

はや歳末となり何かとお忙しきことと存じます。今年中に成しおかなければならないこと忘れが無いかなど振り返り始末したいものです。山中に暦日なく時は刻々と過ぎ去ってまいります。日々一歩一歩前に向かって進むのみ、向寒の砌ご自愛ください。

頓首

11月の報告

3日～4日	妙心寺曝涼展				於、本山
5日～9日	無相教会全国奉詠大会				於、信越教区
8日	第13部 安楽寺本堂落慶・晋山式				於、安楽寺
11日	花園法皇忌				於、本山
11日	一宮・妙興寺開山忌				於、妙興寺
13日	法燈行脚会議(教区役員会、青年僧の会役員)				於、宗務所
15日	名古屋・徳源寺開山忌				於、徳源寺
15日	法燈行脚 鎌倉・建長寺出発				於、建長寺
18日～24日	本派安居会(接心)				於、龍門寺
20日～21日	寺庭婦人会会長会				於、本山
20日	教区寺院セミナー現地研修会				於、永保寺、正眼寺
23日	第8部 1641 真福寺先寺庭	笠井純子様	88歳	逝去	
24日	月授戒会				於、瑞泉寺
24日	第1部 1564 林貞寺先寺庭	大野たか様	74歳	逝去	
25日	微笑会地方大会				於、山陽教区
26日	詩偈研究会				於、徳源寺
28日	法燈行脚会議				於、宗務所
29日～30日	青年の集い				於、本山
30日	第3部 長光寺本堂落慶・晋山式				於、長光寺

12月の予定

1日～3日	法燈行脚、愛知西教区を通過				於、豊明～尾張大橋
2日	青年僧の会・年末托鉢				於、名古屋市・栄周辺
2日	2008年『人権週間』記念講演				於、名古屋市中区役所ホール
2日	法燈行脚 伊深・正眼寺出発				於、正眼寺
6日	花園会全国大会				於、国立京都国際会議場
8日	成道会				
11日	法燈行脚 妙心寺到着				於、妙心寺
11日～12日	開山忌高齢者招待(平成20、21年度招待)				於、本山
12日	妙心寺 開山忌				於、本山
15日	中部地区教化主事会				於、信越教区
15日～16日	梵唄講師養成講習会				於、本山
18日	教区役員会				
24日	宗務本所、宗務所、宗務支所	御用納め	(1月8日)	御用始め	

<報 告>

◎ 寺庭婦人研修会

「第1回ゼンデラレッスン研修会」

愛知西教区寺庭婦人会 吉田美穂

11月18日中京大学文化市民会館会議室にて、第1回ゼンデラレッスン研修会が行われました。テーマは、「傾聴」。私たち寺庭にとって大変興味深く必要不可欠なテーマであり、38人の参加者が集まりました。

講師は、愛知西教区利海寺ご住職様であり、愛知学院大学心理学科主任教授の池田豊應師。まず、はじめに「仏道即カウンセリング」であると言われました。その歴史は、500年前のインドにさかのぼり、サンスクリット語で「ビハーラ（僧院と病院を兼ねていたもの）」で行われたそうです。日本では、聖徳太子が10人の人の話を聞きわけたという逸話も「集団療法」であり、ひとりひとりに合った言葉をかけたものであったそうです。

「傾聴」学ぶことは、相手のところに平安をもたらすだけでなく、自分自身も落ち着いて生活できる場所を持つことができます。しかし、宗教である以上「死のテーマ」を避けることができず、言葉かけには気をつけなければなりません。

誰もが「自分を表現したい願いや、成長を求める場所」を持っています。それを受け止めてもらえる人がいるということが「傾聴」であり、それがこの場所の支えとなります。私たち寺庭がその受け止める人となれば、理想的なお寺の存在となります。

私たちは、檀家さんをはじめそのご家族に相談も含め、多くの方々とお話をする機会があります。そんな時に「傾聴」の場所やテクニックをもって対話ができれば、話をする側、聴く側どちらにも良い結果が生まれてくると思われます。

「傾聴」に大切なことは

◎自分のことのように想像しながら聴く

◎話し手をそのまま尊重して聴く

話し手の言ったことをそのまま相手にもどしてあげることが大切であり、解決につながっていきます。そのためには、話を聴く私たちの態度がたいへん重要となります。まず、自己一致の場所、純粋な場所をもつ。無条件の肯定的、積極的関心をもつ。共感的理解をすること。そのような場所をもって傾聴しなければなりません。質問に答えるよりも気持ちに答えることの方が大切だからです。

聴く側の倫理として、プライバシーは必ず守らなければなりません。また、個人的な関心や欲求、利益の追求は絶対に避けなければなりません。信用なくしては、「傾聴」は成り立たなくなってしまいます。そして、当たり前のことですが、時間を守ることも大切なルールです。

自分自身の生活に相談事を繰り返さない。問題を解決するのは、どんな場合であっても本人であることも忘れてはなりません。

終了後、参加者から「ロールプレイ」も含め、さらに深く研修を受けたいという声もありました。

最後になりましたが、お忙しい中時間をとっていただいた講師の利海寺様、プロジェクター等の準備をいただきました白林寺様、ありがとうございました。

◎ 寺庭婦人会長会

寺庭婦人会長会における分科会報告

第2分科会

記録 長松寺 後藤圭子

寺庭婦人の立場確立と保障について

① 宗教法人の職員として責任役員の一人に寺庭婦人をおき、総代会に出席できるようにして、

お寺が大きく動く時、例えば、住職が亡くなった時等に発言権を得ることができるように寺庭婦人規程に明記していただけないでしょうか。

- ② 助教師と呼ばれるなら、寺庭婦人の研修をしっかりと助教師と言われるにふさわしい研修ができるシステムを構築したい。
- ③ 葬儀の現状（葬儀をしない、親族葬など）が変わってきているが、そういう世代で育った嫁が果たしてお寺の生活ができるか不安。また、若夫婦はマンションに住み、寺へ通勤する形ができてきている。そんな中で、本山のために何ができるかと言われて、嫁が来るかどうかも不安。
- ④ 世間では、同居が減ってきている傾向にあり、世代交代で、先住が後退するときに住居や慰労金などがあれば引退しやすいのではないのでしょうか。

各教区の活性化について

- ① 教区の総会などの出席を増やしたために、部内での集まりを増やし、寺庭婦人間での親しい交流を促す。
- ② 会長会で意見交換したことを会員に知らせる。
- ③ 教区内で工夫して魅力あるものにする。
例えば、教区内で研修したことを何らかの形で資格につながるように認めていくなど。
- ④ 「禅寺レッスン」の勉強会を教区で行い、若い人たちの育成に役立つようなシステムを作る。例えば、愛知西教区では、もうすでに行っているので情報をいただく。

その他

- ① 本山より檀家さんへ結婚祝や出産祝（お守り）をいただくが、大きくなって本山へ来たくなる様な記念品を考慮していただきたい。
自坊でも住職の色紙などを添えてもよい。
- ② 寺庭婦人が亡くなったとき、葬儀で会長又は代理者が弔辞を読む。
（マニュアルを作っておくと会長が交代しても続けやすい）
- ③ 全国の会長会での話し合いの報告に対する回答を文章化していただきたい。
- ④ お寺は寺庭でもつと言う事から、宗会議員会に全国の会長や副会長が参加できないでしょうか。（寺庭が発言できる場がほしい）
- ⑤ 年度始めの教区の役員会に会長が出席しているところがある（愛知西、岐阜西、京都両丹など）ので統一してほしい。

◎ 教区寺院セミナー現地研修会

去る11月20日、岐阜県多治見市・虎溪山永保寺、美濃加茂市・妙法山正眼寺を会場にして「教区寺院セミナー現地研修会」を開催いたしました。午前9時名古屋駅をバスにて出発、車中にて開会式と講義。講師には、京都の作庭家・斉藤忠一（ただかず）氏を迎えて、「庭園の発達」から「禪の庭」、「禪の庭」の歴史と特色の話がされた。日本庭園は飛鳥時代に始まり、奈良・平安・鎌倉時代へと発展していった。

それまでの日本庭園は、各地の名勝を写したり、神仙蓬莱思想（鶴・亀・蓬莱仙）、浄土世界（宇治・平等院が代表）を表現した庭が中心であった。本格的な中国式の禅宗寺院を日本に初めて建立したのは、宋からの渡来僧・蘭溪道隆であり、蘭溪は鎌倉に建長寺を開き、方丈に禪の庭を作った。

夢窓疎石は蘭溪の教えに影響を受け、庭園を禪の悟りのための思惟散策や坐禅修行の場としてとらえ、禪と庭園をより深く結びつけた。夢窓の庭の特色のひとつに、蘭溪の創案といわれる、龍門瀑（りゅうもんぱく）がある。中国の登龍門の故事を庭に表現しものであるが、夢窓はこのテーマを庭の中心に据え、最初に作ったのが風光明美な多治見の地を選び、虎溪山永保寺を開創して「池泉庭」を作った。各地に庵を結び庭園を作成して、「禪の庭」の最高傑作とされる、西芳

寺（苔寺）・天龍寺の庭を造営した。室町時代の北山殿（金閣寺）、東山殿（銀閣寺）は、西芳寺・天龍寺の庭園を手本としたと伝えられる。

10 時過ぎ、永保寺到着、庫裡にて茶礼。萬仞軒老大師のお話を聞き、諸堂拝観。開山堂（国宝）にて、夢窓国師、仏徳禅師の諷経、説明を受けた。引き続き、庭園の説明を受けて山の中腹に有る「坐禅石」に上られる方、観音堂（国宝）の見学・説明を受けた。現在、観音堂前の無際橋の修理中で橋は覆いがかけられ、池の水は抜かれており池面に映る優雅な景色は無かったが紅葉のシーズンで錦織り成す景色は見事で拝観者も多数であった。バスに乘車、昼食後、13 時 40 分 伊深・正眼寺に到着。本堂にて開山諷経。開山堂に参拝後、庫裡にて茶礼。典座の見学。

外に出て、禅堂・毒草窟庭園の見学。重森三玲氏の設計にて、講師の齊藤忠一氏も工事に参加された「正眼寺無量光庭園」地下水の流水を利用して納骨のための井戸を掘り、その上に観音造を建てた。庭はこの観音像を荘厳にするために作られた。観音像の背後の石組みは観音の住する補陀落山を表現し、樹間の石組みは三十三観音を表している。敷石は紫雲、白雲を表し、観音像の足元から放射状に引かれた白い大理石の線は観音菩薩の無量光を表している。

引き続き、禅徳寺の参詣（平成 20 年 花園会報・無相教会報 No.81）P 18～19、開山無相大師が伊深の地から京都に立つ日に草履を脱かれた場所と言われる地に禅徳寺が有る。そこには、開山様ゆかりの品として「笈、三尊仏、紐」が保管されている。本堂にて説明を受け、舍利礼文を諷経し、「笈・三尊仏」を礼拝した。「紐」を住職のはからいにより、間近に見せていただいた。禅徳寺を後にし、バスに乘車。車中にてアンケートの記載、閉会式。16 時 50 分名古屋駅に到着。無事に現地研修会を終了して解散した。

<お願い お知らせ>

◎ 花園会 全国大会

教化本部

来る 12 月 6 日（土）「京都国際会館・大会議場」において開催されます。教区一括して申し込み、バス（日帰り）にて参加予定（現在 160 名）です。 会費 5000 円



妙心寺と開山さま

六五〇年大法要

遠諱テーマ 『どう活かす わたしのいのち』

妙心寺展 （於、名古屋市博物館）

平成 21 年 10 月 10 日～11 月 23 日

★次年度 花園会部会長会・支所長会は、平成 21 年 4 月 15 日（水）に開催。